開会

（事務局）
令和元年度第 1 回大垣市図書館協議会を開催する。

１　委員委嘱について
机上配布

２　あいさつ
（事務局）
今年の委員は、教育振興基本計画の策定委員も兼ねていただく。
今年、大垣市は市制 101 年目となり、令和元年というスタートでもある。来年度から 5 年間の基本計画を策定するにあたり、令和の時代にふさわしい計画を作っていきたい。
これまでの計画とは異なり、市長との間で結んだ『教育大綱』の 4 つの柱に沿って振興計画も策定する。計画の中で、図書館のこれからの方向を明確にしていきたい。
特に、市民の生涯学習や地域を支える情報拠点として役割を果たすため、委員の皆様の様々な視点からご意見をいただきたい。

３　会長・副会長の選任について
委員の互選により、田村会長を選出
同会長が、石橋委員を副会長に指名

４　報告事項　「図書館の概要について」及び「平成 30 年度事業報告について」
（各委員）
質疑なし

５　議題１　「令和元年度の事業計画について」

（委員）
図書館費の図書整備事業について、蔵書冊数は増えているのか。
大垣市は県下第 2 の都市だが、蔵書冊数は県内 4 番目である。購入冊数は多いが、除籍冊数も多いのではないか。大切な本は保管されているのか。
施設には所蔵できる限度があると思うが、どうか。

（事務局）

蔵書冊数は、右肩上がりにゆるやかに増えている。子どもの絵本などは汚れたり破れたりすることも多く、一方で古くなった本の入れ替えもある。パソコンの本やビジネス書も、古いものは更新する。こうしたことから、蔵書の増加はゆるやかである。

書架を増やすほか、上石津図書館、墨俣図書館、地域文庫にも所蔵しているが、3 館とも所蔵できる冊数の限界に近づいている。

（委員）

昨年、この図書館協議会で名古屋市立鶴舞中央図書館を視察したが、バックヤードツアーで見た古い図書が魅力的だった。大垣市も、古い貴重な図書を保存していくスペースがあればと思った。

（事務局）

お客様からは、「近隣の図書館は新しい本が置いてあるが、大垣は昔からの子どもの絵本が多く所蔵されているので楽しい。」とお聞きした。魅力のひとつである。

（委員）

所蔵スペースは、あるのか。

（事務局）

書架を購入して増やしているが、今後を考えると、所蔵スペースは限界に近づいている。

（委員）

大垣市は、上石津・墨俣図書館もあるが、3 館で蔵書の連携はしているのか。

（事務局）

蔵書冊数は、大垣が一番多いが、人気の本については、上石津・墨俣にも所蔵している。3 館を結ぶ連絡車により本の集配をしているので、利用者が必要とする本をすばやく届けることができている。

（委員）

3 館の連携は助かっている。季節の本を読み聞かせしようとして、他の方が利用されているときは、他館からすぐに取り寄せてもらえる。

（事務局）

3館で運営しているため、所蔵がある館から本を取り寄せる。ただ、上石津・墨俣も所蔵スペースは限界に近づいている。

（委員）

墨俣小学校で行う読み聞かせボランティアがきっかけで、墨俣図書館を利用するようになった。図書館職員に相談すると、学年に応じた本を的確に紹介してもらえる。3館の蔵書から選ばれているとわかり、合併したメリットを感じた。

また、講師を紹介してもらい、社会教育推進事業として、読み聞かせボランティアの講座を開催した。図書館に縁のなかった私にしっかり対応してもらえ、感謝する。図書館を利用したことのない人が、図書館を身近に感じるような企画を提案したい。

（委員）

事業報告で、数多くの有意義な行事を行っていることがわかった。市民へはどのように周知しているのか。子どもたちを通じて家庭への広報はしているのか。

（事務局）

広報おおがき、図書館ホームページ、図書館だよりのほか、メールマガジンなどで周知している。

（事務局）

全生徒に配布する『教育委員会だより』や、『文教協会報』にも、図書の情報を掲載している。

（委員）

新聞記事などで、行事が開催されたことを後で知ることが多い。事前に図書館からの情報を受け取れるようになるとよい。

（委員）

若い親はパソコンやスマートフォンを使ってホームページを見ると思うが、タウン誌も有効だと思う。

（事務局）

子ども向けの新刊案内『ポケット』、一般向け新刊案内『本の泉』を学校へ送

付しているので、校内で見られる。タウン誌については、今夏の行事を情報提供したので掲載される予定である。

（委員）

最近は、新聞を読まない人や自治会に入らない人が増えてきている。広報の仕方も変わってきているので、工夫してほしい。

５　議題２　「教育振興基本計画（読書活動推進分野）について」

（委員）

「基本目標 2-⑶　デジタル資料・情報の充実」に、電子書籍の充実とあるが、郷土資料のデジタル化のことか。

（事務局）

現在、電子図書館で提供しているのは郷土資料である。ここで示している電子書籍の充実は、出版されている本のデジタル版であり商用コンテンツである。導入方法の研究や需要の把握に努めていく。

（委員）

「基本目標3-⑶　郷土を学ぶ機会の提供」は、重要である。若いうちに学ばないと、郷土愛が育まれず地元を離れてしまう。子ども世代から学ぶ必要がある。

（委員）

郷土資料は、地域ごとに図書館が所蔵しているのか。

（事務局）

原則、その土地にその資料と考えるので、地域ごとに図書館が所蔵している。しかし、大垣は本館という位置づけから、上石津・墨俣地域の資料収集にも努めている。

（委員）

基本理念が「人づくり」、図書館運営も「人づくり」で、大変であるが、大切な部分である。郷土の宝を、大人も知らないことがある。郷土に誇りを持てるように、図書館の役割がある。

（委員）

郷土のことは、年を取ってまちづくりに関わるようになってから興味を持った。興味を深めようと思うと図書館を利用するといいことが、改めて分かった。

（事務局）
郷土愛の醸成に対し、図書館のふるさとに関する講座は関心が高く勉強になる。子どもたちは、学校教育のふるさと教育で郷土を学んでいるので、大切にしていきたい。

（委員）
赤坂地区へ読み聞かせに行くと、地元の子どもが言い伝えを基にして作った大きな紙芝居があるので、それを利用している。

（委員）
今後、学校でデジタル教材が増えると思うが、各校が準備するのは大変である。図書館が選定して各校に貸し出すことも考えられる。

（事務局）
小中学校にはタブレット40台ずつと大型モニターをつないで、デジタル教材を使った授業が進んでいる。今後は、図書館の郷土資料の活用が課題である。

（委員）
見せ方として、実物投影機などを使って図書館資料を紹介することはできる。紙の資料の良さもある。図書館のデジタル素材を貸し出すのも、一つの考え方である。

（委員）
大垣は情報の先進地なので、図書館も情報センターとしての役割を担うとよい。教育振興基本計画（読書活動推進分野）について、原案通りでよいか。

（各委員）
異議なし。

６　その他

（委員）
事業報告には文学系の講座が多かった。科学や健康・介護に関する講座も開催

すると、新たな図書館利用者が増えるのではないか。市内外の大学と連携して、先生方から貴重な財産を提供してもらい、講座ができるとよい。

（事務局）

次回の協議会は、8月上旬に開催予定。

閉会　15:00